

第八回 総会開催さる



題字・上野慧賢先生

発行所 東京都世田谷区 上用賀一丁目 駒沢大学高等学校 同窓会 TEL (700)6131(代)

会則改正さる

昭和四十八年十二月二日 挨拶。特に上野名誉会長から、高校の現況等の説明があり、同窓会総会の出席が悪いので、同窓生諸氏の賢、大山興隆、高橋馨、白浜正幸の各先生の御出席を得て、開催されました。

第一回役員総会開催

昭和四十九年五月三十日 (木曜日) 午後六時より三軒茶屋「富士」において、第一回の幹事総会が開催されました。この幹事総会には、先日の第八回定例総会において、規約が改正されたために開会されたものです。

新役員紹介

役職	卒業期	氏名
会長	1	秋山 彰三
副会長	1	石田 一男
庶務	2	石井 清繁
	3	関田 喬
	4	田上 太秀
	4	森本 勝
	13	浦 敏之
	16	宮 健二
	16	高 恒一
	19	涌井 清
	19	浜田 好晃
会計	8	小出 明広
	19	小坂 規矩雄
	19	原 正雄
会計監査	3	橋本 信義

昭和48年度決算

昭和49年度決算

項目	金額
前年度繰越金	4,877,565
預金利息	223,061
終身会費	663×3,000 1,989,000
雑収入	1,000
合計	6,999,609

項目	金額
前年度繰越金	5,605,304
預金利息	140,000
終身会費	575×3,000 1,725,000
雑収入	524×3,000 1,587,000
合計	7,470,304

項目	予算額	支出
事務費	30,000	0
通信費	20,000	11,384
会議費	400,000	223,061
総会費	500,000	198,750
慶弔費	100,000	99,310
同窓新報発行費	400,000	0
クラス会助成費	100,000	68,000
クラブ助成費	300,000	271,300
名簿整理準備費	400,000	22,500
寄付金	500,000	500,000
上野先生祝賀会費	200,000	0
合計	7,108,565	7,108,565

項目	予算額	支出
事務費	50,000	50,000
通信費	20,000	20,000
会議費	450,000	400,000
総会費	200,000	100,000
慶弔費	600,000	600,000
同窓新報発行費	200,000	200,000
クラス会助成費	500,000	500,000
クラブ助成費	100,000	400,000
名簿整理準備費	500,000	1,000,000
寄付金	500,000	4,200,304
合計	7,470,304	7,470,304

「解説」

同窓会という組織は同じ教えを受けた者の集合体であるので、仲間意識は必然的に持っているけれど、率直な精神を是非発揮して欲しい。しかし現状では、総会や役員会の集まりがおもしろくない、いつも同じ人しか出席していない。これは、広く会員の意見を聞くことになり、これに人を役員、幹事が責任感と義務感をもって、会議に出席し、その結果を同窓生の間に知らせたい、との発言があった。

一筆啓上

人なみ世間なみ 人の生活のしかたで、人なみ世間なみということがよくいわれる。人なみの生活がしたい、人なみの着物を着たい、という類いである。原因は色々考えられるけれども、まず人なみ世間なみでありたいという心理が第一にあげられると思われる。なぜなら、人なみであるということは一番安全であり、安心していらるからである。目立たず、注目もされず、非難の対象となることがない。

個人カード作成

数年来の懸案事項でありました。同窓生の個人カードの作成にいいよ取りかかる事となりました。個人カードを充実する事によって、本会の基礎固めができると思っています。しかし川崎市では区が作られ、都内のあちこちで地番の変更があります。ならびに郊外へ移転する人も多くいるようですので、変更のあった場合は事務局へ連絡をしていただきたいと思います。

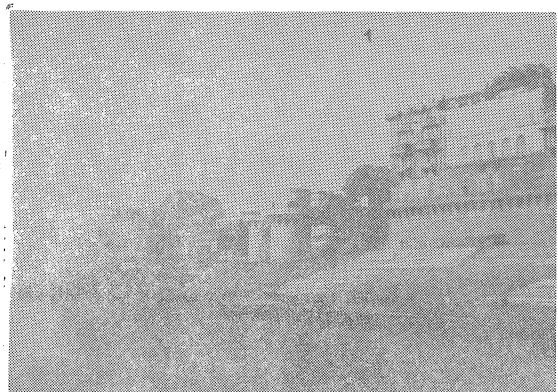
(母校教諭)

インドの旅

池田 茂雄

「人」

こんどの旅は私が青春時代に憧れたフランスと同じように憧れていた国の一つでもある。今回、はからずも縁があってインドを旅行できたのはラッキーであった。しかも単なる物見遊山の旅ではなく、仏蘭地巡礼という一貫したテーマ性をもった行程であった。十二月下旬、バンコック経由でカルカッタ到着は夕方である。それは冬というのにわずかな時間を経て、熱気こもったこの亜熱帯の空気が、輝ける水蒸気の湿気が、立ち昇る異国の最初の入口でもあった。街はアラビア語に似たヒンズ語、大小色あざやかな看板のアラベスクの面白さ、産児制限を表す現する絵入ポスター素焼のコップ。そしてそれにそぐうばしい紅茶の香り、鼻をくすぐる強いカレーの香料。そして白い布(サリー)を身にまとった一見哲学者の堂々としたインド人の立居振舞のノブールな悠々さ、リズムを持った言葉の多様さ、自転車・三輪車のベルの音、脊せた牛の排せつ物、まことに雑然とした中に活気のある、時代の超えた市場風景がいたる所に展開されていた。そして街を往く葬式(戸板に金銀の刺しゅうをほどこされそこに遺体が横たわっている)そして空間全体、人々の数、幾千幾万が街を歩みだし、音響を背景にこだましてある、あゆむ、かける。そこには富貴階級の差を超えた自然な人間の行動が約束されている。「愚かなり人間」の冥府魔道を往く「子連狼(よこみてます?)」の透明な排せつ物の流れに命の河にどっぷりと身を沈め、そしてその水をおし戴き、口をゆすぎ、その「水」を呑み、両手を挙げていたのだ。この非衛生の汚水をこえてこの素朴な信仰の行為はどこからうまれるか、そして彼方を見るならば白布にまとわれた遺体が、人や犬や鳥の足跡の中に赤紫色の痕の残る中、赤紫の果てに燃えている。そしてすでに灰となつた遺体は呪文と共にその流れにばらまかれる。それはあくまでも明るく透明な光景である。非現実的な恐ろしい静寂な有様である。ここには生も死もない運命的な行事が今日も明日も行なわれているだけである。私はこう考える。(インド人という人間の生き方が欲望とか性を満足させる底抜けの自由さが自然という円環の中で営まれているのだと)。



ベナレスガンジス河畔にて

「死と信仰」
ベナレスの聖なるガンジス河の朝焼け。悠久と流れるこの大河は何千年という歴史を反復しながら今も健在である。ここに信仰をもった人々は、まだ太陽の出現をまたずおぼろげな岸の石畳に大きな傘の下で沈坐するヒンズーの高僧にひざまずき、世の生老病苦を口々に吐きつぎ、また冷たいであろう真黒な生物の排せつ物の流れに命の河にどっぷりと身を沈め、そしてその水をおし戴き、口をゆすぎ、その「水」を呑み、両手を挙げていたのだ。この非衛生の汚水をこえてこの素朴な信仰の行為はどこからうまれるか、そして彼方を見るならば白布にまとわれた遺体が、人や犬や鳥の足跡の中に赤紫色の痕の残る中、赤紫の果てに燃えている。そしてすでに灰となつた遺体は呪文と共にその流れにばらまかれる。それはあくまでも明るく透明な光景である。非現実的な恐ろしい静寂な有様である。ここには生も死もない運命的な行事が今日も明日も行なわれているだけである。私はこう考える。(インド人という人間の生き方が欲望とか性を満足させる底抜けの自由さが自然という円環の中で営まれているのだと)。

「インドの生活」
私達が一番びっくりしたのは、滞在期間中、大都市を含めてインドの貧しさの深さとスケールの大きさである。特に地方農村では灯油、ロウソク、牛糞、ゴミを光熱に使用している家庭が多く、旧式なトランジスタラジオが唯一のメディアであり、家財道具もトイレもない狭い家にひしめきあっている家族の姿である(大都会の大衆も、そのような状態の中で生活している人も多い)。日本の大量生産大量消費の生活水準の高さから比べると天と地の違いがある。……にもかかわらず、さすがにインド人の健康な逞ましさとどこから来るのかわからない行為の中に迫ってくるものがあった。国を超え同じ地球の自然の中に生きていく、それぞれの人間の熱い「信頼」をこころに見ることができた。



仏蘭地サルナートにて



アンタの石窟寺院にて

父の書斎に「仏蘭地」という本があった。この本は、父が勤王を志した都立本所病院の院長から、寄贈されたものである。これは長谷川伝次郎という人の仏蘭地の写真集である。私は、子供の頃からこの本を見て、一度インドへ行ってみたいと思っていた。今回機会を得て、仏蘭地を巡拝し得たことは誠に感激に堪えない。昔から、多くの仏教徒が、四大霊地を中

は、カルカッタを見ずして心とする仏蘭地を巡拝したいと考へたに相違ない。しかし震旦へは行けても、更に西にある遠い天竺へは、なかなか行けない。現今では飛行機の発達により、インドまでは僅か十時間で行くことができる。私の場合は、偶

た、私の在学中の部活動は対外的に優秀な成績をあげた。二年連続のテニス部、二回出場陸上競技部、体操部は、初出場し大いに活躍をした。特に体操の個人では二年生の金子君が第二位に入り、また空手部も全国大会に出場した。文化部の囲碁将棋部が全国大会に初出場し、第四位の成績を修めた。これらの部をまとめ、剣道部も三年連続関東大会に出場し、野球部は四年連続都ベスト十六を守っている。(四頁下段に続く)

三十年振りの寒さとか、また仕事を与えてほしいというストがあり、人々も大変苦しんでいた。二十四日朝、待望の仏蘭地を拝するため寝台車で、ガヤ駅に着いた。ここからバスに乗り、アスファルトで舗装された一本道を、当時の都王舎城へ向った。王舎城外、法華経が、説かれたという霊鷲山に着いたのは、正午であった。ここは「拈華微笑」の話を知られていて、坐禅をなした石室が、中腹にあり、頂上が、説法をなされたところであるとか、展望のよいところであつた。ここから、バスで十分の行程のところに、竹林精舎がある。マカダ王ビンビサーラが、釈尊に帰依し、教団に寄進した仏教最初の寺院である。竹林の名に相応しく、青竹が繁り、美しい赤い花が咲き、池があり、よ

父の書斎に「仏蘭地」という本があった。この本は、父が勤王を志した都立本所病院の院長から、寄贈されたものである。これは長谷川伝次郎という人の仏蘭地の写真集である。私は、子供の頃からこの本を見て、一度インドへ行ってみたいと思っていた。今回機会を得て、仏蘭地を巡拝し得たことは誠に感激に堪えない。昔から、多くの仏教徒が、四大霊地を中

は、カルカッタを見ずして心とする仏蘭地を巡拝したいと考へたに相違ない。しかし震旦へは行けても、更に西にある遠い天竺へは、なかなか行けない。現今では飛行機の発達により、インドまでは僅か十時間で行くことができる。私の場合は、偶

た、私の在学中の部活動は対外的に優秀な成績をあげた。二年連続のテニス部、二回出場陸上競技部、体操部は、初出場し大いに活躍をした。特に体操の個人では二年生の金子君が第二位に入り、また空手部も全国大会に出場した。文化部の囲碁将棋部が全国大会に初出場し、第四位の成績を修めた。これらの部をまとめ、剣道部も三年連続関東大会に出場し、野球部は四年連続都ベスト十六を守っている。(四頁下段に続く)

三十年振りの寒さとか、また仕事を与えてほしいというストがあり、人々も大変苦しんでいた。二十四日朝、待望の仏蘭地を拝するため寝台車で、ガヤ駅に着いた。ここからバスに乗り、アスファルトで舗装された一本道を、当時の都王舎城へ向った。王舎城外、法華経が、説かれたという霊鷲山に着いたのは、正午であった。ここは「拈華微笑」の話を知られていて、坐禅をなした石室が、中腹にあり、頂上が、説法をなされたところであるとか、展望のよいところであつた。ここから、バスで十分の行程のところに、竹林精舎がある。マカダ王ビンビサーラが、釈尊に帰依し、教団に寄進した仏教最初の寺院である。竹林の名に相応しく、青竹が繁り、美しい赤い花が咲き、池があり、よ

た、私の在学中の部活動は対外的に優秀な成績をあげた。二年連続のテニス部、二回出場陸上競技部、体操部は、初出場し大いに活躍をした。特に体操の個人では二年生の金子君が第二位に入り、また空手部も全国大会に出場した。文化部の囲碁将棋部が全国大会に初出場し、第四位の成績を修めた。これらの部をまとめ、剣道部も三年連続関東大会に出場し、野球部は四年連続都ベスト十六を守っている。(四頁下段に続く)

父の書斎に「仏蘭地」という本があった。この本は、父が勤王を志した都立本所病院の院長から、寄贈されたものである。これは長谷川伝次郎という人の仏蘭地の写真集である。私は、子供の頃からこの本を見て、一度インドへ行ってみたいと思っていた。今回機会を得て、仏蘭地を巡拝し得たことは誠に感激に堪えない。昔から、多くの仏教徒が、四大霊地を中

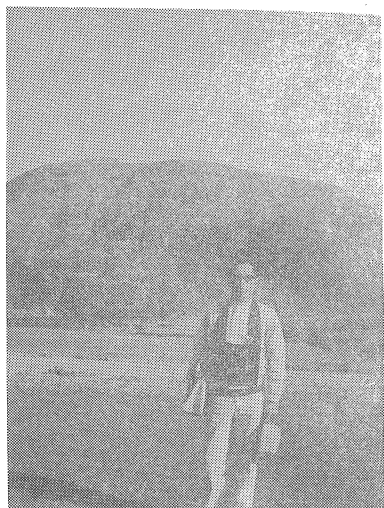
は、カルカッタを見ずして心とする仏蘭地を巡拝したいと考へたに相違ない。しかし震旦へは行けても、更に西にある遠い天竺へは、なかなか行けない。現今では飛行機の発達により、インドまでは僅か十時間で行くことができる。私の場合は、偶

た、私の在学中の部活動は対外的に優秀な成績をあげた。二年連続のテニス部、二回出場陸上競技部、体操部は、初出場し大いに活躍をした。特に体操の個人では二年生の金子君が第二位に入り、また空手部も全国大会に出場した。文化部の囲碁将棋部が全国大会に初出場し、第四位の成績を修めた。これらの部をまとめ、剣道部も三年連続関東大会に出場し、野球部は四年連続都ベスト十六を守っている。(四頁下段に続く)

三十年振りの寒さとか、また仕事を与えてほしいというストがあり、人々も大変苦しんでいた。二十四日朝、待望の仏蘭地を拝するため寝台車で、ガヤ駅に着いた。ここからバスに乗り、アスファルトで舗装された一本道を、当時の都王舎城へ向った。王舎城外、法華経が、説かれたという霊鷲山に着いたのは、正午であった。ここは「拈華微笑」の話を知られていて、坐禅をなした石室が、中腹にあり、頂上が、説法をなされたところであるとか、展望のよいところであつた。ここから、バスで十分の行程のところに、竹林精舎がある。マカダ王ビンビサーラが、釈尊に帰依し、教団に寄進した仏教最初の寺院である。竹林の名に相応しく、青竹が繁り、美しい赤い花が咲き、池があり、よ

た、私の在学中の部活動は対外的に優秀な成績をあげた。二年連続のテニス部、二回出場陸上競技部、体操部は、初出場し大いに活躍をした。特に体操の個人では二年生の金子君が第二位に入り、また空手部も全国大会に出場した。文化部の囲碁将棋部が全国大会に初出場し、第四位の成績を修めた。これらの部をまとめ、剣道部も三年連続関東大会に出場し、野球部は四年連続都ベスト十六を守っている。(四頁下段に続く)

クシナラにて



クシナラにて

駒沢大学高等学校同窓会 会則

- 第一条 本会は駒沢大学高等学校同窓会と称する。
- 第二条 本会は本部を駒沢大学高等学校に置く。
- 第三条 本会は会員相互の親睦をはかり併せて母校の興隆発展のための諸活動を行なう。
- 第四条 本会は第三条の趣旨に則つて左の事業を行なう。
- 第五条 総会の開催
- 第六条 総会の促進及び一部経費援助
- 第七条 会報の発行
- 第八条 会員名簿の発行
- 第九条 駒沢大学高等学校において必要と認めたる事業の後援
- 第十条 その他
- 第十一条 本会の会員は左の三種とする。
- 第十二条 正会員 駒沢大学高等学校卒業生を以て構成する。
- 第十三条 特別会員 駒沢大学高等学校の現・旧教職員を以て構成する。
- 第十四条 賛助会員 本会の趣旨に賛同し併せて本会の事業を支援する者を以て構成する。
- 第十五条 本会の運営は左の役員を以て行なう。
- 第十六条 但しその任期は二年とし再任を妨げない。
- 第十七条 一名 名誉会長 若千名
- 第十八条 二 顧問 若千名
- 第十九条 三 会長 若千名
- 第二十条 四 副会長 若千名
- 第二十一条 五 常任幹事 若千名
- 第二十二条 六 庶務 若千名
- 第二十三条 七 会計 若千名
- 第二十四条 八 幹事 若千名
- 第二十五条 九 幹事 若千名
- 第二十六条 一、名誉会長は駒沢大学高等学校長を推薦し、顧問若千名は特別会員中より名誉会長がこれを委嘱する。
- 第二十七条 二、顧問の内一名は常時学校と同窓会との連絡の任に當るものとする。
- 第二十八条 会長・副会長・庶務・会計・会計監査は正会員中より常任幹事会が選出し役員総会の承認を受ける。但しうち会計一名は正会員と限定せず駒沢大学高等学校に勤務する者を以てこれにあてることが出来る。
- 第二十九条 一、常任幹事は原則として各期から一名を選任する。
- 第三十条 二、幹事は原則として各級会から一名を選出する。
- 第三十一条 名誉会長たるに顧問は本会の運営に参与しその円滑をはかる。
- 第三十二条 会長は本会を代表し会務を統轄する。時にこれに代る。
- 第三十三条 常任幹事・幹事は各期・各級を代表して本会の運営に参画する。
- 第三十四条 本会は左の会議を開催する。
- 第三十五条 一 総会 原則として年一回以上会長がこれを召集する。
- 第三十六条 二 役員総会 毎年一回以上会長がこれを召集する。
- 第三十七条 三 常任幹事会 その他臨時必要と認められた場合会長がこれを召集する。
- 第三十八条 四 その他
- 第三十九条 本会の会計は会員の会費及び寄付金等による。
- 第四十条 本会会員は入会金一、〇〇〇円、終身会費二、〇〇〇円の計三、〇〇〇円を納入するものとす。なお同会費は卒業時を以て納入する。
- 第四十一条 本会会則の変更は役員総会の議決を経なければならぬ。
- 第四十二条 本会会則は昭和四十八年七月十日より適用する。
- 第四十三条 本会会則は昭和四十八年十二月二日より適用する。

駒沢大学高等学校同窓会 細則

- 第一条 本細則は本同窓会会則の精神に則り、その目的遂行のためにもうける。
- 第二条 会議規定
- 第三条 役員総会は会則第六條の役員により構成される。
- 第四条 常任幹事会は会則第六條九項の幹事を除く役員により構成される。
- 第五条 予算・決算及び事業計画については役員総会の決定による。
- 第六条 役員総会の決議事項は総会または会報で報告する。
- 第七条 助成規定
- 第八条 同級会開催にあたっては金五千円の助成を行なう。但し開催時の事情に応じて増額することが出来る。
- 第九条 同期会（学年会）開催にあたっては金五千円以上の助成を行なう。
- 第十条 O B 会及びそれに準ずる会の開催にあたってはその状況に応じて金五千円以上の助成を行なうことが出来る。
- 第十一条 母校校友会の各部に於いて、連盟若しくはそれに準ずる団体の主催する全国大会及び関東大会等に出席する場合、その開催地・規模等に応じて、個
- 第十二条 人の場合、金壹千円以上、団体の場合、金参千円以上を、助成することが出来る。
- 第十三条 慶弔規定
- 第十四条 一、本会員の死亡の際は正会員には金貳千円、特別会員及び役員の場合はその功績に応じて金貳千円以上の香奠を贈ることが出来る。
- 第十五条 二、本会員の婚姻に際しては、祝電を送ることが出来る。
- 第十六条 三、本会員以外で、本会に關係が深いと思われる人に對しても、前二項に準じて会長の判断により処理することが出来る。
- 第十七条 表彰慰勞規定
- 第十八条 一、永年勤続者の特別会員に對しては、次の規定によつて表彰することが出来る。
- 第十九条 二十年以上勤続者については金壹万円以上。
- 第二十条 三十年以上勤続者については金貳万円以上。
- 第二十一条 特別会員が本校を退職するに際しては、次の規定によつて、慰勞金等を贈呈することが出来る。
- 第二十二条 五年未満の者については金五千円まで。
- 第二十三条 五年以上十年未満の者については金五千円以上

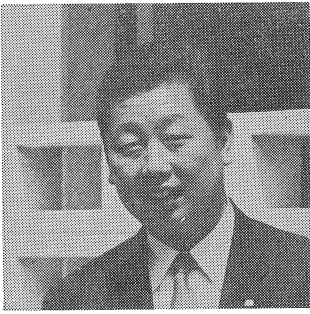
同窓生だより

「解説」
今回の会則改正はマンモス化した、組織の合理化を計ったものである。特に幹事が百二十余名となり、年々十数名ずつ増加して行くために、審議がしにくくなり、また出席者が逆に減少して行く傾向にあったために、各期の代表者が責任を持って会議に出席し、審議に参加するようにした。会議規定を加え、さらに内容を充実した。

同窓生を尋ねて (第一回)



石井清繁 (第二期生)



森本 勝 (第四期生)

私は、共同石油株式会社 特約店、有限会社石井商店を営んでおります。創業は昭和三十六年です。従業員の中に駒大高卒のものが三名あり、駒大生にもアルバイトでしばしば手伝っていただいております。現在、本業のほかに、東京都石油業組合品川支部長、品川小山四丁目町会長、区政協力員など兼務し活動しております。

最後に二期生の同窓生諸氏が駒大高同窓会へ熱心な参画を希望しお願いいたします。

(了)

クラス会報告

昭和四十八年	昭和四十九年
四月二十三日	四月二十三日
四月二十九日	四月二十九日
五月二十七日	五月二十七日
十一月十三日	十一月十三日
十一月二十四日	十一月二十四日
十二月九日	十二月九日
昭和四十九年	昭和四十九年
一月十六日	一月十六日
二月九日	二月九日
三月九日	三月九日
三月三十日	三月三十日
四月六日	四月六日
八月三日	八月三日
八月十日	八月十日

O・B 会報告

昭和四十八年	昭和四十九年
四月二十六日	四月二十六日
五月七日	五月七日
五月二十日	五月二十日
十月七日	十月七日
十二月十日	十二月十日
昭和四十九年	昭和四十九年
一月六日	一月六日
一月七日	一月七日
一月十八日	一月十八日
二月二十三日	二月二十三日
四月二十八日	四月二十八日
五月十八日	五月十八日
六月二十二日	六月二十二日

結婚報告

昭和四十八年	昭和四十九年
四月二十三日	四月二十三日
五月一日	五月一日
五月六日	五月六日
五月七日	五月七日
五月八日	五月八日
五月二十六日	五月二十六日
九月六日	九月六日
九月十九日	九月十九日
九月二十四日	九月二十四日
十月六日	十月六日
十月二十七日	十月二十七日
昭和四十九年	昭和四十九年
三月九日	三月九日
三月十日	三月十日
三月十七日	三月十七日
六月十六日	六月十六日

特別会員の異動

就任者	退任者
小出 明広 (国語)	大山 陽堂 (仏教)
福島 忠雄 (数学)	三浦 徳雄 (国語)
久保田 真継 (日本史)	
若山 芳昭 (国語)	
後藤 逸男 (化学)	
森 一夫 (地学)	
彰 (英語)	

用務員のおばさん逝く

春休みに入つてまもなくの美化のために汗を流し、三月二十三日用務員の内 あかぎれを作りましたが、田イマさんが自宅にて他界されて下さいました。ここに謹んで御祈り下さい。

編集後記

昨年は原稿が思うように集まらず、やむなく発行することが出来ませんでした。が、本年度は皆様の御尽力により第五号を発行することができました。今後はより内容豊富に、変化にとんだものへと一層の充実性を持たせたいと思っております。「同窓新報」発行のため、皆様の御協力をお願い致します。又、会員諸兄相互の連絡事項・クラブOB会・クラス会等の連絡事項、結果報など、どしどしお寄せ下さい。出来得る限り掲載致したいと思っております。で、この「同窓新報」、有意に御利用下さい。

めつきりすくしくなりました今日の頃、会員諸兄には呉々もお身体を大切に。今後の「同窓新報」どうぞ御期待下さい。